

赤池箕ノ手近隣公園(面積約 10,000 m<sup>2</sup>)は、令和元年度にワークショップとパブリックコメントを行い基本設計が策定されていますが、その後5年が経過しており、この間に持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた取り組みの推進、グリーンインフラの取り組みの推進、インクルーシブな遊び場の整備の推進など、公園緑地を取り巻く社会情勢は変化しています。

社会情勢等の変化に対応した公園整備を進めるため、既存の基本設計を活かしつつ、構成要素の追加・機能の充足を行い、基本設計をブラッシュアップすることとなりました。改訂版の公園の整備コンセプト、基本方針は以下のとおりです。

(1)公園名称

ワークショップで決定した **赤池中央公園** です

(2)整備コンセプト

**多世代が集うコラボレーション公園**

～ 歴史的なみどりを活用したグリーンインフラ整備で、まちの価値を高めるシンボル公園づくり ～



(3)基本方針

1. 多目的利用が可能な空間の確保

- ・イベントやスポーツ、防災などの多様な利用ができるオープンスペースを確保する
- ・芝生のオープンスペースとすることで、多目的利用とグリーンインフラの両立を図る
- ・公園の特性を活かすことで公園の持つ多機能性のポテンシャルを発揮し、公園利用者および地域社会の Well-being の向上に寄与する

2. 憩いの空間の確保

- ・公園内の各所に木陰で憩う場を設け、だれもが自分の思うように憩い、楽しみ、集える場所づくりを進める
- ・園内の随所に保護者の見守り場所を確保する

3. 幅広い遊びと健康づくりの機会創出

- ・幼児から児童に対応した遊具を設置する
- ・街区公園の遊具にないインクルーシブ遊具を配置して、誰もが安全に遊ぶことができるようにする
- ・幅広い年代の健康づくりに役立つよう、ウォーキングコースを設置する
- ・長時間の滞在、幅広い利用者層に対応するため、多目的トイレを設置する

4. 緑の空間演出

- ・常緑樹と落葉樹を織り交ぜて、年間を通じた緑を確保する
- ・本公園は都会をイメージさせない森に囲まれた自然的で魅力のある空間とすることで、地域の方々が時間を気にすることなく長く滞在できる場所とする
- ・グリーンインフラ機能を持つ修景(雨庭)、斜面を活かした修景(あじさい)などにより、魅力ある緑の空間を演出する
- ・SDGs(持続可能な開発目標)の観点<sup>\*1</sup>から、植付ける樹種は在来の植生からも選定して、緑の持つ機能の適正化に取り組むとともに、公園の緑がまちの緑に溶け込む景観をつくる

\*1:目標 11(住み続けられるまちづくりを)、目標 15(陸の豊かさを守ろう)など

5. 交通アクセスの確保

- ・各方面からの歩行者のアクセスのために、入り口を3ヶ所設置する
- ・自動車でのアクセスのために、直近に整備した米野木中央公園の例にならない、駐車場を確保する。幅広い利用に対応するため、車いす使用者駐車スペースを設ける(基本設計:乗用車11台、車いす1台→改訂:乗用車9台、車いす3台)
- ・自転車でのアクセスのために、駐輪場を確保する

キッズテラスのイメージ

